

まんなかビジョン討論会（名古屋会場）開催結果の概要

1. 開催日時・会場

- ・ 日時 平成 14 年 12 月 1 日（日）13：30～15：30、曇時々小雨
- ・ 会場 名古屋都市センター 14 階 第 1，2 会議室

2. 出演者構成

- ・ コーディネーター
藤田 素弘（名古屋工業大学助教授）
- ・ 発言者
飯田 英明（名古屋市在住）
井沢 知旦（名古屋市在住）
伊藤 一美（名古屋市在住）
梅本 隆弘（名古屋市在住）
九鬼 綾子（名古屋市在住）
畔柳 剛（岡崎市在住）
真田 亮（名古屋市在住）
鈴村 剛志（名古屋市在住）
原 啓祐（名古屋市在住）
- ・ 行政側出演者
若林 陽介（国土交通省中部運輸局企画振興部長）
丸山 隆英（国土交通省中部地方整備局港湾空港部港湾空港企画官）
梶山 鋭一（名古屋市緑政土木局企画経理課主幹）
- ・ 聴講者数
47 名（男性 41 名、女性 6 名）
- ・ 会場風景



3. 主な発言要旨

[私の考える地域づくりに関して]

- ・ 「自分が住んでいる都市が一番好きだ」と言えることが重要。「住みたいと思う都市」を尋ねたあるアンケートでは、名古屋が13都市中最下位であった。どうしてこのような結果になるのかという潜在的な要因をきちんと見直すことが重要なのではないか。
- ・ 国・自治体の予算が年々縮小していく中では、優先して整備していく箇所を絞って取り組んでいくことが必要である。また、これまで造ってきたものをいかに活用していくかということも重要だ。
- ・ 道路・公園・河川といった公共空間は、市民にとって使いやすい空間であれば、多様な市民活動が活発化し、結果的に市民満足度も向上する。公共空間の管理主体を見直し、地域で管理できるしくみをしっかり考えるべき。
- ・ 子供達が大きくなったときに、「この地域で育ててよかった」と思える地域、親が「この地域で子育てして本当によかった」と思える地域であってほしい。
- ・ 日々、黒川や庄内川の河川清掃などをやっている。都市の中でも、子どもが安心して遊べる川、川遊びを体験できる場所を残していきたいと思っている。
- ・ この地域に埋もれている豊かな資源をいかに上手く活用して、訪れた人にPRしていくかが地域の魅力を高める上では大切だ。
- ・ 産業を担う人材を地域でいかに育成していくかと言うことも大きな問題。若い人材がこの地域で暮らすことに魅力を感じるような地域づくりをしていくことが必要。
- ・ 中部地域は自動車という環境に負荷をかけるものを世界中に売り出して潤ってきた面がある。国として、地域として発言力を高めるためには、積極的にCO2の削減など環境への取り組みをしていくべきである。
- ・ 自転車は街中を移動するには便利であり、自転車を使えば、車の移動では見落としてしまう地域の魅力を発見することにもつながる。名古屋がもっと自転車で走りやすい街になるとよい。
- ・ 「自分の地域は自分たちで守る」という気持ちで地域づくりを行っている。「安心して暮らせる」ということはすべての人の願いであり、モラル向上など地域の環境は住民自身がしっかり目を配ることが重要だ。

[まんなかビジョンへの期待]

- ・ まちづくり・地域づくりというと、男性主導型になりがち。新しいビジョンにはぜひ女性の視点や子ども達の視点を取り入れてほしい。
- ・ 名古屋に欠けているものは、思い切ったビジョンと提案である。「まんなかビジョン」では、是非思い切ったビジョンと取り組みを掲げてほしい。
- ・ 市民、企業、行政がそれぞれ力を発揮できるようしくみづくりが必要。それぞれの目標を実現するためには、誰が主体になるのかということを考えて、主体を育てる視点をビジョンに取り入れてもらいたい。

[中部の目指すべき方向（7つの目標）のうち、名古屋市周辺地域や中部地域全体にとって特に重要な目標（意向アンケート結果*を受けて）] *意向アンケートの結果は未尾掲載

- ・ 産業がしっかりしていることが、豊かな生活をもたらす要因である。物流コストの低減、情報インフラ整備とコスト低減など国際競争力を強化する基盤整備を着実に進めることも重要だ。
- ・ の「安全・安心な地域づくり」は何をおいても基本ではないか。災害時には、市民も行政も企業も皆一斉に被害者となる。いざというときに頼りになるのは周囲のコミュニティであるから、日頃からコミュニティで地域の課題に対応していくことが重要。
- ・ 再開発や道路整備など「造る」という行為は必ず「壊す」と言う行為を伴うので、歴史や文化など過去、現在、未来をよく観察し、どのように造り、何を残すべきかをよく議論してほしい。そこから地域の個性が磨かれていくと思う。
- ・ まんなかビジョンは中身が盛りだくさんで、全部やりきれないのではないか。優先順位をつけるなどしてはどうか。実行するということが何よりも重要。

[その他、まんなかビジョンについて]

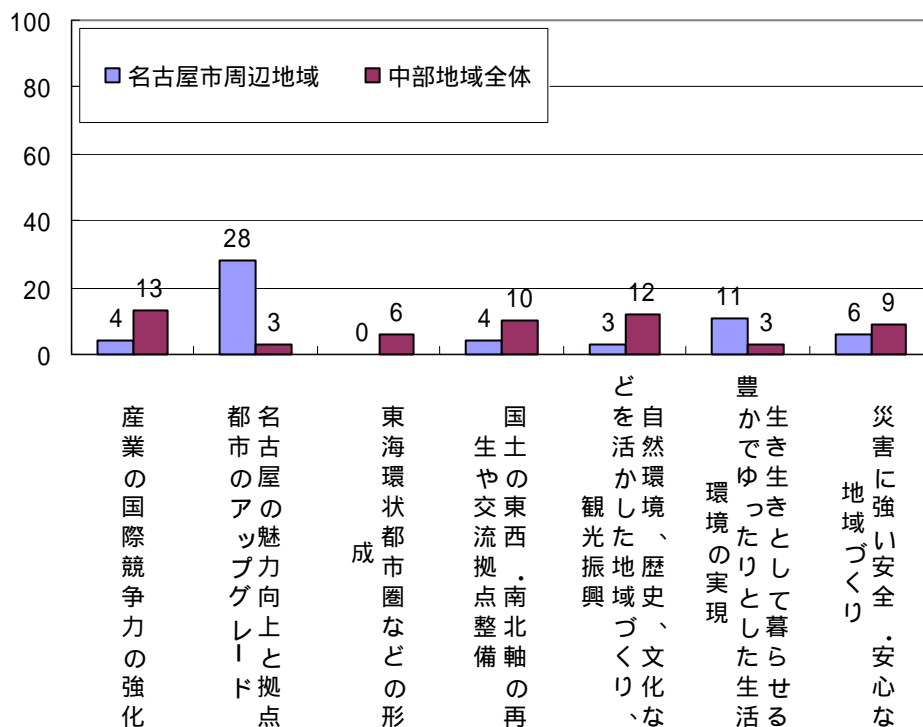
- ・ これからは質的充足のビジョンが必要。7つの目標は、並列的に扱うのではなく、立体的に組み立てていくことが望ましい。
- ・ 従来、様々な計画を国、自治体もつくってきたが、結果的に負の遺産が山積みとなっている。これからのビジョンは具体的なアクションプランを示し、情報発信していくことが必要なのでは。
- ・ ビジョンの目標を達成するためには、他省庁、他機関との連携が重要だ。

4. 意向アンケート結果

会場にお越しいただいた聴講者やコーディネーター、発言者の方に対し「意向アンケート」を実施し、その場で、「中部の目指すべき方向（7つの目標）」について、名古屋市周辺地域と中部地域全体のそれぞれの観点から最も重要と思われる項目について尋ね結果を公表した。結果は以下の通りである。

- ・ 名古屋市周辺地域では、「名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」が 28 票と飛び抜けて多く、次いで「誰もが生き生きとして暮らせる生活環境の実現」が 11 票となった一方で、「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成」(0 票)をはじめ、他の項目はいずれも得票数がわずかとなっている。
- ・ 一方、中部地域全体では、「産業の国際競争力の強化」(13 票)、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などの保全・再生・創出活用」(12 票)、「国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」(10 票)、「災害に強い安全・安心な地域づくり」(9 票)と上位 4 つがほぼ僅差で続いている。

〔意向アンケート得票数〕



5. アウトカム目標に関するセンテンスの抽出

- ・ アウトカム目標の候補 > 「子育てしやすい生活環境を形成します」()
- ・ 関連する地域の声 > 「子供達が大きくなったときに、「この地域で育ってよかった」と思える地域、親が「この地域で子育てして本当によかった」と思える地域であってほしい。」(名古屋市、女性)

- ・ アウトカム目標の候補 > 「市民が使いやすい公園や水際空間を創出し都市に活気をもたらします」()
- ・ 関連する地域の声 > 「道路・公園・河川といった公共空間は、市民にとって使いやすい空間であれば、多様な市民活動が活発化し、結果的に市民満足度も向上する。公共空間の管理主体を見直し、地域で管理できるしくみをしっかり考えるべき。」(名古屋市、男性、会社役員)

- ・ アウトカム目標の候補 > 「産業を担う人材が魅力を感じるような地域づくりを進めます」()
- ・ 関連する地域の声 > 「産業を担う人材を地域でいかに育成していくかと言うことも大きな問題。若い人材がこの地域で暮らすことに魅力を感じるような地域づくりをしていくことが必要。」(名古屋市、男性、会社員)

- ・ アウトカム目標の候補 > 「災害時・緊急時における地域の支援体制を日頃から醸成します」()
- ・ 関連する地域の声 > 「災害時には、市民も行政も企業も皆一斉に被害者となる。いざというときに頼りになるのは周囲のコミュニティであるから、日頃からコミュニティで地域の課題に対応していくことが重要。」(名古屋市、男性、会社役員)